

## シリーズ「放課後子ども教室」

### 【第67回】初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）掲載 マナビー・メールマガジン掲載

#### 放課後子ども教室『夕焼け広場』の取り組み

北海道函館市立あさひ小学校 校長 黒丸 譲二

本校は平成14年に2つの小学校が統合、『“地域性を生かした教育” “学びと遊びを育む教育” を実践し “生涯学習の場としての機能” を持つ学校（コミュニティ・「あさひ」を目指す）』として開校し、現在11年目、12学級、258名の児童が在籍しています。

平成16年「放課後の子どもの安全な居場所の確保」という学校や保護者の願い、「昔のように子どもが群れ、年齢の枠を越えて地域で遊ぶ姿を復活させたい」という地域の方々の願いが行政の新しい事業「地域子ども教室推進事業」と一致し、「子どもと遊ぶ＝夕焼け広場」の活動がごく自然な形でスタートしました。

運営指導委員会が主体となり、指導員として地域・保護者・学生ボランティア、事務局として小学校と教育委員会からコーディネーター1名、約50名が登録しています。昨年度は、年間127回開催され、のべ5,657名が参加、指導員も1日平均8人参加していただいております。

活動は月曜日から金曜日まで毎日、曜日によって活動内容や実施場所が異なりますが、子どもたちは楽しみにしており、授業が終わると急いで活動場所に移動し、保護者が押印した「出席カード」を指導員に見せ、受付をしたのち活動に入ります。遊びの場、体験の場、学びの場に毎回40名程度参加し、体育館・グラウンド・多目的ルーム等で異年齢による「群れて遊ぶ」「汗をかいて遊ぶ」活動交流や学習サポートルームでの学習活動が進められています。

中心となる指導員の多くが65歳前後と高齢化してきていますが、指導員の方々は「いつも私たちが子どもたちから元気をもたらしているんですよ！」と喜んでくださいます。子どもたちが関わりの中から多くのことを学び、さらにお年寄りをいたわる心が育ってほしいと思いますし、指導員の方々にはこれからの時代を担う子どもたちと共に楽しみながら集い合う場になってほしいと願っております。

（初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第214号に掲載)

（マナビー・メールマガジン第41号に掲載)